「The Family」

―１稿―

2025/12/07

山極 瞭一朗

〈人物表〉

一瀬（いちのせ）　将生（まさき）　（27）　百田組構成員

三田（みた）　咲子（さきこ）　（25）　週刊誌記者

一瀬（いちのせ）　龍一（りゅういち）　（53）　将生の父

百田（ももた）　勲雄（いさお）　（56）　百田組組長

1. **百田組事務所・外観（夜）**

　3階建てのビル。

　壁面に大きく『百田組』と記されている。

2. **百田組事務所・廊下（夜）**

　向こうから、一瀬将生（27）が歩いてくる。サングラスをかけたシャツの隙間から刺青が見える。

　扉の前までやって来ると、ふっと息を吐き、ノックする。

3. **百田組事務所・組長室（夜）**

　真っ暗な室内。

　外からゆっくりと扉が開かれ、将生が入る。

将生「オヤジ……？」

　訝し気にスマホを取り出し、明かりを灯そうとする。と、パンッと大きな音と共に部屋の明かりが点く。

　咄嗟に身構える将生。

　部屋の隅に隠れていた百田勲雄（56）が歌いながら将生に近づく。

百田「Happy Birthday to You」

　手にはクラッカー。

　組長席にはケーキが置かれている。

　将生はホッとしたようで、

将生「脅かさないでくださいよ」

百田「ロウソク消してから電気つけるべきだったな」

将生「火も点いてないないっす」

百田「段取り間違えた」

　将生はふっと笑みをこぼす。

×　×　×

　壁面には歴代組長の写真が飾られている。

　ソファ席、将生と百田は向かい合わせで座っており、ケーキを食べながら話す。

百田「家族になって何年になる？」

将生「10年です」

百田「１９からか。時の流れは早いな」
将生「あの日も誕生日でした」
百田「ショートケーキを買ってやった」
将生「ええ」
百田「大きくなったな」
将生「中学の時から身長は変わってません」
百田、ニヤリと笑って将生を見つめる。
将生、イチゴを頬張る。

4. **百田組事務所近くの道（深夜）**

路肩に1台のミニバンが停車中。
事務所から将生が出てくる。ミニバンを認めて、眉間に皺を寄せるが、向こうに歩いていく。

5. **百田組事務所近くの道（朝）**

事務所前に将生や構成員たちが直立不動で制止している。
将生、ふと目をやると、依然路肩にミニバンが停車している。
高級外車がやって来て、止まる。
構成員たちは一斉に頭を下げる。
将生、後部座席の扉を開ける。
百田がタバコをふかしながら出てくる。
すると、ミニバンが急発進。百田めがけて一直線。
慌てふためく構成員たち。

将生「オヤジ」
と、咄嗟に百田を突き飛ばす。
将生に迫るミニバン。
すんでのところでかわす。
ミニバンは電柱に衝突する。

百田「な、なんだ……」
ふと我に返った構成員たちが怒声をあげながら、ミニバンに近づき、運転席から三田咲子（２５）を引きずり下ろす。

咲子　「百田、殺す」
　　地面に押さえつけられた咲子は百田を睨んでいる。

6. 百田組事務所・地下室（昼）

　　咲子、口元にはガムテープ、両手足を拘束され、椅子に縛り付けられている。
　　将生、入る。手には名刺が握られている。
　　咲子に近づき、乱雑にガムテープを剥がして、
将生　「目的はなんだ」
　　名刺には、『週刊文鳥社会部記者　三田咲子』とある。
　　咲子、不敵に口角をあげる。
将生　「記者がオヤジに何の恨みがある？」
咲子　「……まさかあなたに会えるとは」
将生　「は？」
咲子　「一瀬将生だよね」
　　将生、ピクっと頬を歪めて、
将生　「どこで俺のことを？」
咲子　「あなたに会えた。ひとつ目的は達成。無茶した甲斐あったかも」
　　と、室内をざっと見渡して、
咲子　「この部屋監視されてる？」
将生　「……カメラはない」
　　咲子、ふっと微笑んで、
咲子　「10年前、七宮市再開発」
　　将生、思わず目を見開く。
咲子　「のちに七宮談合事件と呼ばれる一連の事件に百田が深く――」
将生　「待て、何の話だ」
咲子　「あなた、何も知らないの？」
将生　「は？」
咲子　「その一件で私の家族は死んだ。事故として処理されたけど、百田が殺した」
将生　「うちは殺しはやってない」

咲子　「そしてその直後、当時の市長が自殺した」
　　　将生、ごくりと息を呑む。

7. **（回想）一瀬家・廊下（夜）**
　　　将生（15）、向こうからやって来て、ある部屋の前で立ち止まる。
　　　中では、一瀬龍一（53）が思いつめた様子で両手を組んで座っている。
将生　「親父」
　　　龍一、ハッとして顔を挙げると、咄嗟に笑みを見せて、
龍一　「将生、テスト勉強は順調か」
　　　将生、こっくりと頷く。
龍一　「そうか、頑張れよ」
将生　「親父」
龍一　「ん？」
将生　「いや、何でもない」
　　　と、立ち去る。

8. **（回想）一瀬家・龍一の部屋（夕）**
　　　首を吊って息絶えている龍一に夕日が差している。
　　　将生、呆然として龍一を見上げている。

9. **百田組事務所・地下室（昼）**
　　　咲子、両手を将生の眼前に掲げて、
咲子　「私と手を組まない？」
将生　「……」
咲子　「百田を殺すのは簡単じゃない。私たちで――」
将生　「オヤジが殺すわけない」
咲子　「証拠なしに乗り込むと思う？」
将生　「オヤジは俺を救った」
咲子　「恩人？　幻想よ。利用しただけ。してるだけ、今もね」
　　　将生、ぎゅっと拳を握りしめ、咲子を殴る。

１０．百田組事務所・組長室（夕）

　将生は百田に相対している。将生の拳には痣。

　百田、痣を一瞥して、

百田「奴の目的は？」

　将生、逡巡して、

将生「逆恨みのようです」

　百田、鼻で笑って、

百田「俺に不利益をもたらす人間は消せ」

将生「消す？　殺しはご法度では？」

百田「表向きの話だ」

将生「ですが――」

百田「まだ殺ったことなかったか」

将生「では、今までにも？」

百田「何を今更。当然だろ」

　将生、ピクピクっと頬を歪める。

百田「ちょうどいい機会だ。１０歳の誕生日。特別な仕事」

　と、抽斗を開き、銃を取り出す。

将生「オヤジ……」

百田「できるよな。俺たちは家族、お前は俺の」

　将生、ぎゅっと拳を握って、

将生「……息子です」

　と、ぎこちなく笑って見せる。

（おわり）